

例 言

1. 本書は日本学術振興会科学研究費（学術研究助成基金助成金（基盤研究（B））の交付を受けて実施した研究の成果報告書である。

課題名：3次元データによる瓦の同範認識技術の基礎的研究（課題番号：19H01355）

研究代表者：林 正憲（独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所

都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 考古第三研究室長）

研究経費	総額	直接経費	間接経費
平成31年度／令和元年度	3,770,000	2,900,000	870,000
令和2年度	6,630,000	5,100,000	1,530,000
令和3年度	6,630,000	5,100,000	1,530,000
合計	17,030,000	13,100,000	3,930,000

2. 研究成果

- ・本書
- ・三好佑佳 2021「SfM-MVSを用いた瓦の研究－西大寺出土軒平瓦 6732M 型式と同型式派生系軒平瓦の比較－」『奈良大学大学院研究年報』26、pp. 39-45
- ・岩戸晶子・道上祥武 2021「天神山瓦窯周辺出土鴟尾の検討」『奈良文化財研究所紀要 2021』、pp. 22-23
- ・今井晃樹 2021「昭和38年一条院調査出土の軒瓦」『奈良文化財研究所紀要 2021』、pp. 180-183
- ・岩戸晶子 2021「3次元モデルを活用した平城宮出土唐花文鬼瓦の復元」『奈良文化財研究所紀要 2021』、pp. 194-195
- ・中村亜紀子・今井晃樹・林正憲・岩永玲 2021「三次元計測データで比較する同紋瓦と同範瓦－東大寺式軒丸瓦の検討－」日本文化財科学会第38回大会ポスターセッション
- ・中村亜紀子・今井晃樹・林正憲・岩永玲 2022「「瓦様」と瓦範－東大寺式軒丸瓦における同紋瓦・同範瓦の再検討－」『奈文研論叢』第3号、pp. 1-37（本書に再録）
- ・石田由紀子・新尺雅文・中村亜希子 2022「変形忍冬唐草文軒平瓦 6647C の再検討」『奈文研論叢』第3号、pp. 133-152（本書に再録）

3. 本書は、中村亜希子（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター客員研究員）が第2章1を、山口欧志（同センター遺跡・調査技術研究室研究員）が第2章2を、第3章は上記成果のうち論文2本を再録し、それ以外の部分を林正憲が執筆・編集した。執筆分担は各章・項の末尾にも示した。